

しみじみわかる血栓止血 Vol. 1 DIC・血液凝固検査編

著 者：朝倉英策(金沢大学附属病院 病院臨床教授)

判 型：A5判 150頁 定価(3,800円+税)

出版社：中外医学社 2014年11月発行

臨床検査技師を目指す学生にとって、血液検査を正しく実施し、結果を正しく解釈する力は重要な基礎力であるが、血液検査の中でも、特に凝固・線溶検査の分野を苦手とする学生は多い。これは、凝固・線溶機構が非常に複雑であり、様々な凝固因子・凝固抑制因子・線溶系因子が登場することに起因する。学生は、個々の因子の働きや臨床的意義を理解した上で、各因子がどのように連携して働くのかを整理し、各因子が検査にどう影響するのか、また、検査結果と病態がどうつながるのか、関連付けながら考えることが必要になる。

今回、凝固・線溶検査への苦手意識を乗り越え、学生が抵抗感なく血栓止血学を学ぶことのできる本として、本書を紹介したい。

本書は、DICと血液凝固検査について大変わかりやすく解説した一冊である。著者は、血栓止血学の分野を代表する研究者・臨床医として広く知られる朝倉英策先生であり、豊富な臨床経験と教育経験が本書の随所に活かされている。

序文に「寝ころびながらでも読めるのに血栓止血学がしみじみわかるをモットーにしています」と書かれている通り、気軽に手に取って血栓止血学を学ぶことができる本である。サイズはA5判で、持ち歩きにも適している。本書の特徴の一つは、一般的な医学書とは一線を画す文体にある。「です・ます調」を基調とし、「なぜ～なのでしょうか」という問いかけや、「～かもしれません」のような表現を交えながら、まるで著者の講義を文字起こししたかのように解説が展開される。この親

しみやすい語り口によって、専門知識の習得に伴う心理的なハードルが下がり、読者は複雑な血栓止血学を無理なく学ぶことができる。

本書では、1章において、基本的な血栓止血の機序や血管内皮細胞の抗血栓性作用、線溶について解説がなされ、2章において、血液凝固検査の基本がわかりやすく述べられている。単に凝固カスケードや各種凝固検査の意義が解説されているのではなく、検査を正しく理解する上で重要な考え方が示されている。教科書では丸暗記になりがちな部分も、論理的に考えるように誘導されており、読者の理解が深まる。そして3章では、播種性血管内凝固症候群(DIC)が詳しく解説されている。本書は全150頁であるが、この3章が100頁近くを占める。DICと関連検査項目、病型分類、さらにはDICモデル動物における各種検査項目の変動や治療効果、そして実際の臨床における治療法に至るまで解説されている。

本書は血液検査学の教育現場において、学生が血栓止血学を積極的に学ぶきっかけづくりにも活用できる。本書の表紙には、白衣を着た人物が、お茶とおせんべいを手に、ほのぼのとした表情で凝固カスケードを思い浮かべているイラストが描かれている。血液検査学実習中に本書を実験台に置いておくと、血栓止血学の難しいイメージとは対照的な表紙に興味を惹かれ、本書を手にする学生は少なくない。中には借りていく学生もあり、学生を自然に能動的な学習へと導く効果を感じている。

臨床医向けの内容も含まれているが、是非、臨床検査技師を目指す学生の方や、その教育に携わる先生方にお勧めしたい一冊である。

(本木由香里：山口大学大学院医学系研究科
基礎検査学講座 ymotoki@yamaguchi-u.ac.jp)